

新規事業採択時評価結果（令和4年度新規事業化箇所）

担当課：道路局 国道・技術課
担当課長名：長谷川 朋弘

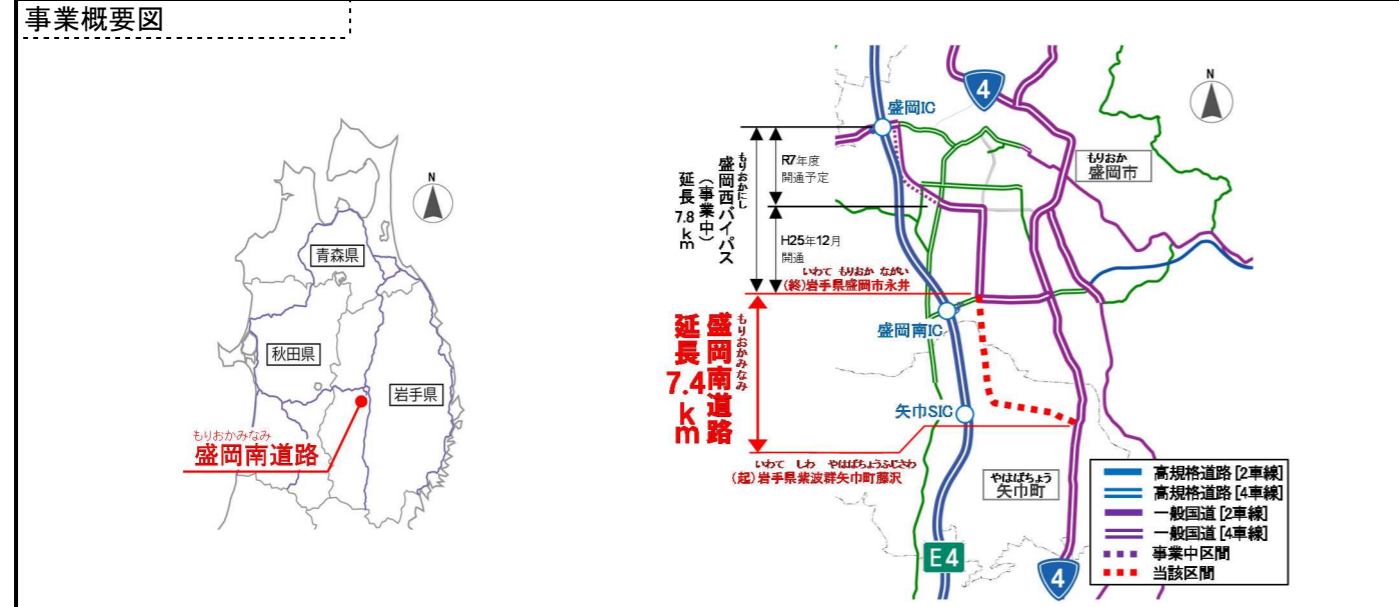
事業の概要

事業名	一般国道4号 盛岡南道路	事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 東北地方整備局
起終点	自：岩手県紫波郡矢巾町藤沢 至：岩手県盛岡市永井	延長	7.4 km		

事業概要
一般国道4号は、東京都中央区を起点に岩手県内を南北に縦断し青森県青森市に至る主要幹線道路である。このうち盛岡南道路は、渋滞緩和や交通安全の確保を目的とした延長7.4 kmの道路事業である。

事業の目的、必要性
当該事業の整備により、交通混雑を緩和し交通の速達性及び安全性を向上。岩手県南地域の産業集積地への円滑な物流を確保し、地域産業の活性化を支援するとともに、三次救急医療機関への円滑な搬送経路を確保し、地域の救急医療活動を支援するものである。

全体事業費：約380億円 計画交通量：約39,100台/日



関係する地方公共団体等の意見
【岩手県知事】
予算化することについて同意します。
国道4号矢巾町藤沢から国道46号盛岡市永井までの区間は、沿線の市街化等に伴う交通量の増加により慢性的な渋滞が発生しているため、幹線道路としての定時性、速達性の確保が大きな課題となっています。
また、盛岡貨物ターミナル駅を中心として、当該区間周辺に集積する岩手流通センター、盛岡市中央卸売市場などの物流拠点との円滑なアクセスルートの確保や、県内唯一の高度救命救急センターへの安全・安心な搬送ルートの確保が急務であることから、盛岡南道路の令和4年度の予算化について、特段の御配慮をお願いします。

学識経験者等の第三者委員会の意見
・新規事業化については妥当である。

事業採択の前提条件
■費用対便益：便益が費用を上回っている。
■手続きの完了：計画段階評価手続き完了（R2.2.7）、都市計画決定手続き完了（R4.2.18）

事業評価結果

費用便益分析	B/C	2.4	総費用：275億円 （事業費：246億円 維持管理費：29億円）	総便益：654億円 （走行時間短縮便益：641億円 走行経費減少便益：12億円 交通事故減少便益：0.6億円）	基準年 令和3年	
	感度分析の結果	交通量変動	B/C=2.0	（交通量 -10%）	B/C=2.8	（交通量 +10%）
		事業費変動	B/C=2.2	（事業費 +10%）	B/C=2.6	（事業費 -10%）
	事業期間変動	B/C=2.1	（事業期間 +20%）	B/C=2.7	（事業期間 -20%）	
事業の影響	自動車や歩行者への影響	評価項目	評価	根拠		
		渋滞対策	◎	・現道交通の転換により、交通混雑を緩和し、速達性を向上 【旅行速度】 現況：32km/h ⇒ 整備後：43km/h（11km/h向上）		
		事故対策	◎	・現道交通の転換により、交通混雑を緩和し、安全性を向上 【交通事故件数】 現況：127件/4年 ⇒ 整備後：87件/4年（約3割減少）		
	社会全体への影響	歩行空間	-	・注目すべき影響はない		
		住民生活	◎	・三次救急医療機関への円滑な搬送経路を確保し、搬送時間を短縮 【盛岡駅～三次救急医療機関への搬送時間】 現況：27分 ⇒ 整備後：21分（6分短縮）		
		地域経済	◎	・国道4号への円滑な輸送経路を確保し、所要時間を短縮 【盛岡貨物ターミナル～国道4号への所要時間】 現況：24分 ⇒ 整備後：8分（16分短縮）		
		災害	-	・注目すべき影響はない		
		環境	-	・注目すべき影響はない		
地域社会	○	・東北自動車道の矢巾スマートICのアクセス性向上が期待される				
事業実施環境	○	・都市計画決定手続き完了（R4.2.18） ・岩手県知事、盛岡市長、岩手県道路整備促進期成同盟会等より、盛岡南道路の事業化を要望				

採択の理由

費用便益比が2.4と便益が費用を上回っているとともに、計画段階評価手続きが完了し、事業採択の前提条件が確認できる。
また、交通の速達性及び安全性の向上、地域産業の活性化や地域の救急医療活動の支援など、当該事業の整備の必要性・効果は高いと判断できる。
以上より、本事業の新規事業化については妥当である。

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。

新規事業採択時評価結果（令和4年度新規事業化箇所）

事業評価結果（防災機能）

事業の必要性		
当該区間の整備により、交通の速達性及び安全性の向上を図ると共に、地域産業の活性化や地域の救急医療活動を支援することを目的とする。		
評価項目	地域の課題	関連する計画
救助活動等	<p>岩手県内で発生する大規模災害に対応する、「人」「物」「情報」の機能が集約された全県拠点としての「広域支援拠点」が、盛岡・花巻エリアに配置されている。</p> <p>広域支援拠点 12 箇所のうち、「盛岡市総合アリーナ」や「岩手医科大学災害時地域医療支援教育センター」など 4 箇所が盛岡市と矢巾町に配置されており、人員・物資輸送ルートへの途絶や連絡時間の大幅な増加の恐れがある。</p>	<p>※東北圏広域地方計画（H28. 3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害リスク低減のためのハード対策として、緊急輸送道路の強化、格子状骨格道路ネットワーク整備、道路交通網の代替性や多重性の確保を推進する。 災害に強い圏土を形成するために、東北圏全体の交通ネットワークを考慮した代替性・多重性の確保を図る。 <p>※いわて県民計画（H31. 3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 災害に強い道路ネットワークを構築するため、県土の縦軸・横軸となる幹線道路の整備、緊急輸送道路や代替機能を有する路線の防災機能の強化などを推進。 <p>※岩手県新広域道路交通ビジョン（R3. 6）</p> <ul style="list-style-type: none"> 今後、起こりうる大規模災害に備え、被災地への支援活動の拠点となる防災拠点等の機能強化が必要。
住民生活	<p>三次救急医療機関への救急搬送は盛岡市中心部からの搬送が最も多い。</p> <p>救急搬送ルートが交通混雑区間を走行する経路となるため、救急搬送が阻害されている。</p>	<p>※東北圏広域地方計画（H28. 3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 患者を医療施設へ搬送するための速達性のある確実な道路ネットワークや救急車退出路等、命を守る道路の整備を促進する。 <p>※岩手県新広域道路交通ビジョン（R3. 6）</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内各地から第二次救急医療施設や第三次救急医療施設への、速達性及び代替性に優れた救急医療活動を支える道路ネットワークの強化が必要である。
地域経済・地域社会等	<p>岩手県の輸送用機械器具製造品出荷額は東北 1 位であり、当該区間は自動車部品の輸送経路となっている。</p> <p>物流拠点から国道 4 号へのアクセスが悪く、更に混雑区間を走行する輸送となるため、円滑な物流が阻害されている。</p>	<p>※いわて県民計画（H31. 3）</p> <ul style="list-style-type: none"> 物流の効率化など生産性の向上を図るため、内陸部と港湾を結ぶ道路、工業団地や I C へのアクセス道路、港湾などの社会資本の整備・利活用を推進します。 <p>※岩手県新広域道路交通ビジョン（R3. 6）</p> <ul style="list-style-type: none"> 県内各地域の主要工業団地等の物流拠点へのアクセス道路として、速達性を担保できる高規格幹線道路等の早期完成や機能強化が必要である。
その他		

事業の有効性									
<p>当該区間の整備により、主要拠点間のリンクの評価は C ランクから B ランクに改善するため、ネットワーク全体の防災機能が強化される。</p> <p>また、災害時にも機能する信頼性の高い道路ネットワークが確保されるとともに、地域産業の活性化や救急医療活動を支援するなど、有効性の高い事業と評価する。</p>									
道路ネットワークの 防災機能	主な区間		改善 ペア数	脆弱度 (防災機能ランク)		累積脆弱度 の変化量	改善度		評価
				整備前	整備後		通常時	災害時	
	岩手医科大学 附属病院	盛岡市	1	0.59 [C]	0.25 [B]	▲0.3	0.00	0.46	◎

事業の効率性
計画段階評価手続き完了（R 2. 2. 7）、都市計画決定手続き完了（R 4. 2. 18）